

令和5年度学校推薦型選抜 小論文  
地域創生学部地域創生学科 地域産業コース 応用情報志向枠

【出題の意図】

本学及び地域創生学部・地域産業コースのアドミッション・ポリシーに基づき、情報学への強い関心，社会問題の解決のために自ら行動する意欲，物事を複数の視点から相対的に捉える思考力，自分の考えを論理的に伝えることができる表現力を総合的に評価することを目的として出題した。

問題を考察するために提示された資料を読み，その要点を的確に把握し，その上で自身の意見を述べるという課題を通して，情報学への関心や解決への意欲，論理的な思考力，文章表現力を評価する。

【解答例及び採点のポイント】

問1

(ポイント)

- ・「創発」について，事例（細胞，蟻など）を用いて説明してあることが求められる。
- ・人工知能の手法である「群知能」について蟻が群れることにより高い知能を示すことが説明されている。
- ・人工的にロボット同士が連携し，課題を解決する人工知能システムを形成することが説明されている。

問2

(ポイント)

下記の事柄の説明があれば評価する。

- ・蟻は揮発性のあるフェロモンを地面に付けながら歩いている。
- ・餌を見つけた時には，巣から餌までの匂いのルートが1つ形成される。
- ・巣と餌を結ぶルートは1つではなく，短いルートを発見する可能性がある。
- ・発見したルートの中で繰り返し行うことで，最短と考えられるルートの発見に至る。

(出題者注)

仮説を立てるために，妥当な根拠が必要となる。このため，出題の意図にあるように，資料を読み，理解した上で，その要点を的確に把握することが必要であり，ポイントに記載されている内容をもとに，自分の考えた仮説を論理的に述べることが求められる。